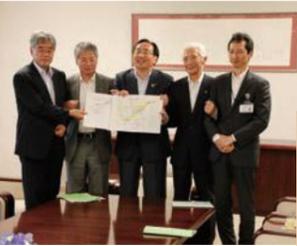


提言  
されました

平成30年6月27日(水)に、奥入瀬溪流利活用検討委員会の石田東生委員長より、三村申吾知事と小山田久市長に奥入瀬ビジョンが提言されました。



提言に合わせて行われた懇談では、奥入瀬ビジョンの実現に向けて引き続き関係者と連携して取り組んでいきたいとの決意表明や、環境や景観、高齢者・障がい者に配慮したモビリティの検討と観光客に満足してもらう工夫が必要などの意見がありました。

奥入瀬ビジョン提言の際の懇談での主なご意見

- ・環境や景観を考慮したモビリティの検討を通じて、奥入瀬溪流を環境(植生)に優しい地域にしたい。
- ・高齢者や障がい者にも配慮したモビリティの検討を進めたい。
- ・トイレの整備や電波状況の改善等、お客様に満足してもらう工夫が必要である。
- ・奥入瀬・北八ヶ岳・屋久島のネイチャーガイドが集まってフォーラムを開催するなど、地元も頑張っている。十和田市でも観光機能を集約した新たな組織を平成30年度中に立ち上げる方針である。
- ・国立公園満喫プロジェクトと連携し、「来てよかった、また行きたい」と言われる奥入瀬を目指したい。
- ・来訪者の観光消費額の増加に向けて、お金を使ってもらう仕組みが必要である。
- ・奥入瀬溪流利活用検討委員会での検討も、地元の高い期待に負けない勢いで進めていきたい。

「これからの奥入瀬を考えるシンポジウム」を

奥入瀬の「目指す姿」実現に向けて、皆さんと一緒に考えていくためのシンポジウムを下記のとおり開催します。是非ご参加ください。

日時：平成30年9月29日(土) 14:00~17:00  
 場所：十和田市民文化センター  
 テーマ：奥入瀬・十和田湖地域を世界に誇れる地域として次世代に残していくためには

開催  
します

シンポジウムの詳細は、青森県国土整備部道路課のホームページをご覧ください。  
<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kendo/doro/oirase-r102.html>

今後  
について

奥入瀬ビジョンに基づき、「地域の目指す姿」を実現するための具体的な取り組みを展開し、世界に誇れる奥入瀬・十和田湖地域を目指します。

具体的な取り組み

- ・交通システムの具体的な検討
- ・地域づくりの担い手が結集し、実行力、調整力のある組織の設置
- ・官民および行政内の役割分担の明確化
- ・体制や進め方に関する秋田県側との連携

奥入瀬ビジョンは、今回をキックオフとして、今後も引き続き利活用の検討を進めていく中で、適宜更新し、充実・進化させていきます。

奥入瀬・十和田湖地域を、世界に誇れる地域として次世代に残していくためにも、引き続き、地域の皆さまとの意見交換を通じて、各分野の関係者が協力・連携し合いながら、地域が一体となった取り組みを進めていきたいと考えています。

\*\*\* 皆さま、今後ともよろしくお願いたします! \*\*\*

「国道102号(奥入瀬溪流)の利活用に関する取り組みについて紹介します」(青森県ホームページ)

<http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kendo/doro/oirase-r102.html>

- お問い合わせ先
- 奥入瀬溪流利活用検討委員会事務局
  - ・十和田市 観光推進課 TEL:0176-51-6772
  - ・青森県 道路課 整備推進グループ TEL:017-734-9651
  - ・国土交通省 青森河川国道事務所 調査第二課 TEL:017-734-4570

# 奥入瀬溪流の利活用検討 NEWS

(平成30年7月発行)  
 発行者：奥入瀬溪流利活用検討委員会事務局(十和田市・青森県・国土交通省)

## 第6号

このニュースレターは、「今後の奥入瀬溪流の利活用」について、地域の皆さまとのコミュニケーションの状況を広くお知らせするために発行しています。

今後の奥入瀬溪流の利活用に向けて

完成  
しました!

## 奥入瀬・十和田湖地域の目指す姿 (奥入瀬ビジョン)

### 奥入瀬ビジョン 検討の背景

現在、国道103号奥入瀬(青楓山)バイパスの整備が進められています。

バイパスが整備されると、溪流区間の現道空間を柔軟に使うことが可能となり、観光振興、地域づくり、ひいては地域の皆さまの生活にも少なからず影響があると考えられます。

そこで、行政と地域の皆さまが一体となり、奥入瀬溪流の交通規制だけでなく、環境保全、観光振興、地域づくりも含め、「地域の目指す姿(=奥入瀬ビジョン)」の検討を進めてきました。

### 奥入瀬ビジョン 検討経過

平成27年度以降、ワークショップ13回、協議会4回を開催し、地域の皆さまと共に、活発な意見交換を行いました。また、講演会も4回行い、講師の方からはヒントやアドバイスをいただきました。

これまでの真剣な議論を踏まえて、「地域の目指す姿(=奥入瀬ビジョン)」をつくりあげることができました。ありがとうございました。

### 国道103号奥入瀬(青楓山)バイパス事業

一般国道103号の十和田市青楓山~十和田市子ノ口(奥入瀬溪流沿いの道)は、急勾配で道幅の狭い区間や通行規制区間があり、通行上の課題となっています。

奥入瀬(青楓山)バイパスは、それらの課題を解消し、安全で円滑な交通の確保を目的とする道路です。

平成25年度より、直轄権限代行事業として青森河川国道事務所が整備を進めています。



# 奥入瀬ビジョンの概要

※) ■地域の課題、■地域の目指す姿、■目指す姿を実現するための基本戦略は、奥入瀬ビジョンから抜粋しています。



## ■奥入瀬ビジョンについて

奥入瀬（青樺山）バイパス整備後の奥入瀬・十和田湖地域の**目指す姿**や、これを達成するための**戦略**について、自然環境の保全、地域の基幹産業である観光の振興、交通システムの観点から議論を重ね、「奥入瀬ビジョン」としてとりまとめました。

## 奥入瀬ビジョン戦略マップ

- ※奥入瀬（青樺山）バイパス完成後を想定しています。
  - ※エリアの項目は機能を示しています。
  - ※現時点のもので、今後、修正の可能性あります。
- ◆多様な観光ニーズへの対応
  - ◆各地区の観光振興コンセプトの明確化
  - ◆ターゲットを明確にした地域ブランドづくり・観光資源発掘
  - ◆奥入瀬溪流・十和田湖の連携、および広域連携による観光の推進
  - ◆冬季観光の推進
  - ◆ゾーンコンセプトの明確化
  - ◆立入りによる攪乱の防止
  - ◆貴重な自然環境の永続的な保全



- 黒文字：交通システム
  - 緑文字：観光振興
  - 紫文字：環境保全
- 国立公園特別保護地区
  - 国立公園特別地域

## ■地域の課題

- ・地域づくりに関する基本的な考え方を明確にし、共有することが必要。
- ・適切な機能分担、連携を図り、戦略的な取り組みを行うことが必要。
- ・地域づくりを担う、担い手・推進役・組織が必要。
- ・周辺地域との連携が必要。

## ■地域の目指す姿

- ＜基本的な考え方＞
- ・すばらしい自然環境を有する奥入瀬・十和田湖地域を、世界に誇れる地域として次世代に残していくためには、人と自然が共存・共生し、持続可能な地域であることが必要です。
  - ・そのために、自然環境や歴史文化の保全と、観光を中心とする生業（なりわい）が両立した地域を目指します。

## ＜具体的なイメージ＞

- ◆天然の自然博物館での学びの地
  - ・奥入瀬溪流とこれに沿った14kmの自然遊歩道が「世界のネイチャートレイル」と言われるような自然環境の保全と利活用が融合した地域。
  - ・奥入瀬溪流・十和田湖の地質・自然の「天然の展示物」から、自然の成り立ちや営みを直接学べる地域。
  - ・太古の地層、複雑な溪流の流れ、冬季の雪・氷柱、ミクロの森（コケ）などにより、様々な分野の表現者に創作意欲を与える地域。
- ◆心身を浄化する聖地
  - ・十和田信仰にまつわるストーリーや歴史文化を学ぶことで、郷土愛や地域への誇りの醸成や、知的好奇心の充足および心身の浄化ができる地域。
- ◆五感に訴える自然回帰の地
  - ・森・溪流の景観、森の香り、溪流のせせらぎ・野鳥の鳴き声、コケの触感、地域の食を五感で楽しめる地域。
  - ・ストレス発散・心身の回復ができる地域。
- ◆人と人との触れ合いの地・国際交流の地
  - ・地域住民が、地域の自然史や形成史（地史）、歴史・文化を学んだ上で、国内外の観光客に奥入瀬溪流・十和田湖の魅力を伝えることにより、国際交流による学び、外部視点からの魅力の再発見、郷土愛・誇りの醸成ができる地域。

- ◆アクティビティと郷土食を満喫できる地
  - ・1年を通してアクティビティを楽しんだり、季節によって変化する地域の食を堪能したりすることで、自然との一体感を感じることができる地域。
  - ・心身の回復や地域への愛着の醸成、思い出づくりができる地域。

## ■目指す姿を実現するための基本戦略

- ・地域づくりとしての総合的な取り組みの推進。
- ・奥入瀬溪流の価値を各分野間で共有した取り組みの推進。
- ・奥入瀬（青樺山）バイパスの整備による交通軸の転換。
- ・十和田八幡平国立公園に係る各種施策との連携等。
- ・周辺地域との広域連携。

※カート：電動カート等の小型低速車両をイメージ

